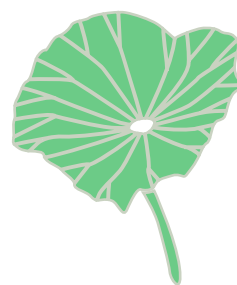


# ヒーリング講座

## —初級編—



*For Tennyo Healers*



# 目次

## 【基礎知識】

- ・ヒーリングのメカニズム・・・・・・・・・・2
- ・ヒーラーは特別な存在にあらず・・・・・・・・・・3
- ・霊体について・・・・・・・・・・4
- ・誤解されがちな事・・・・・・・・・・5
- ・ヒーリング時の注意点・・・・・・・・・・6



## 【実践】

- 直接エネルギーを送る・・・・・・・・・・7
  - 直接ヒーリング
  - 自己ヒーリング
- 遠隔でエネルギーを送る
  - エネルギーボールを使う
  - 遠隔で一定の時間、継続的にエネルギーを送る・・・・・・・・・・8

## 【ヒーリングのメカニズム】

みなさんは、体のどこかに痛い箇所がある時、無意識に手を当てていることはありますか？ また、子供のころ、お腹が痛い時にお母さんがお腹をさすってくれることで痛みが和らいだ経験はありますか？

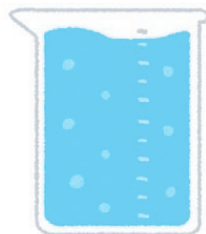
これらは「手当て療法」「ハンドヒーリング」「ヒーリングタッチ」などと呼ばれ、世界各国で昔から見られる療法で、手から出ている自分のエネルギーを流しています。



エネルギーは水のように高いところから低いところへ流れる性質があります。ヒーリングの場合、元気な人から元気のない人へエネルギーが流れます。エネルギーを受け取った人は自然治癒力や免疫力が向上するので、心身が回復しやすい状態となり、「癒される」こととなります。

手当て療法や気功（内気功）は、自分のエネルギーを使います。

ヒーラー（ヒーリングを行う人）と呼ばれている人たちの中には、自分の力を使う人もいますが、自分の力は使わず他所からエネルギーを分けてもらってヒーリングを行う人もいます。



元気な人

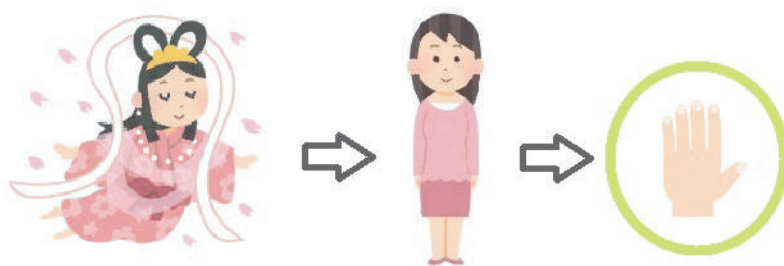


元気のない人

## 【ヒーラーは特別な存在にあらず】

数あるヒーリングの中で、例えば、レイキヒーリングは宇宙エネルギー（地球上のエネルギー）を取り入れて、エンジェルヒーリングや天女ヒーリングは彼等が使っているエネルギーを分けてもらって、ヒーリングを行っています。それぞれに特徴があり、優劣をつけられるようなものではありません。

なにより知っておいてもらいたいことは、ヒーラーが相手を「治す」のではなく、エネルギーを受け取った相手が、そのエネルギーを使って「自分自身で心身を回復させる」ということです。あくまでヒーラーはエネルギーを通す媒体、パイプであり、サポート役なのです。



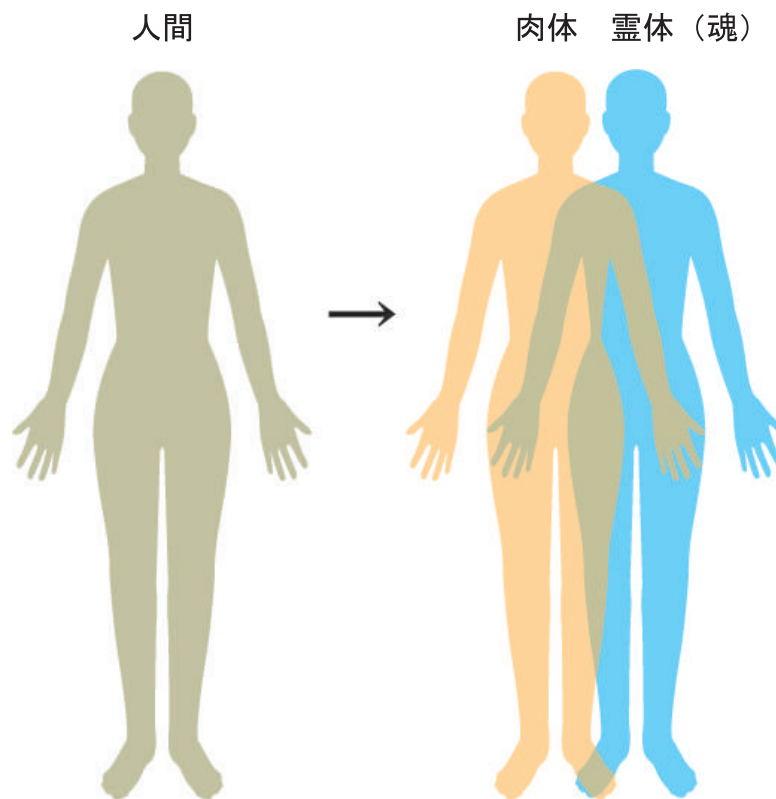
また、ヒーラーは決して「特別な存在」などではありません。足の速い人、記憶力の良い人、歌が上手な人、ダンスが上手な人など、みなさんそれぞれに個々の能力があると思います。ヒーラーの力というのは、あくまでそのような能力の一つだと思って下さい。

人間は誰一人としてすべてが全く同じという人はいません。多様性という意味では個々が特別な存在です。逆に言うと、皆さんそれぞれが個性を持っているので、能力の違いはあっても、誰一人として特別な存在などではないのです。



## 【霊体について】

人間は肉体と霊体（魂）とで構成されていて、霊体は肉体と同じサイズで肉体にぴったりと重なっています。また、霊体は素粒子よりも小さな物質でできています。人間が死ぬと肉体から霊体が離れ、いわゆる魂の状態になります。



霊体の役割は、エネルギーを取り入れ肉体に供給することです。霊体は記憶力に優れていて、肉体の形や相手の波動（魂の発している固有振動。いわば魂の指紋のようなもの）を記憶します。ヒーリングのエネルギーは霊体に供給され、霊体がエネルギーで満たされると肉体の自然治癒力が活性化し、その結果、身体が元気になります。

# 【ヒーリングで誤解されがちな事】

## - よくある質問 Q&A-

Q. ヒーリングをしているときに相手から悪い気をもらってしまう

A. 人から移ることはありません。そのように感じるのは、自分自身の記憶や経験から同じようなものをつくり出してしまっているからです。

Q. ヒーリングをすると疲れる

A. 自分のエネルギーを使う場合は疲れます。他所からエネルギーを取り入れてヒーリングを行うタイプのヒーラーの場合、エネルギーにゆだねることができていれば、疲れることなく（自分のエネルギーを使うことなく）自分も一緒に癒されます。

Q. ヒーラーは占い師のようにすべてがわかっている

A. 「ヒーリング」と「リーディング」は能力が違います。

Q. ヒーラーのいうことは全て正しい

A. 人は間違いを犯します。全知全能ではありません。ヒーラーであろうと、間違っただけのものを信じ込んでしまう人もいます。

Q. ヒーリング能力が高いと人間性が高いように思っている

A. 能力と人間性は別物です。

Q. ヒーラーの言うことを聞かないと運気が下がる

A. ただの脅しです。ただし、ヒーリングを受けることによって運気が上がる場合があります。

Q. ヒーリングを受けている最中に眠ってはいけない

A. ヒーリング中はリラックスするので眠くなります。眠気は自然なことですので、眠っても問題ありません。

他にもありますが、ヒーラーであろうが誰であろうが私自身も含め、人の言うことを鵜呑みにせず、自分でしっかり吟味することをおすすめします。納得できないところは納得するまで聞き直す勇気も必要です。

## 【ヒーリング時の注意点】

### ・水分を摂りましょう

ヒーリングを行うと新陳代謝が活発になるため体内の水分が失われます。脱水症状を予防するためにもこまめに水分を補給しましょう。

### ・時計は外しましょう

クォーツ時計は、水晶に電圧を加えて一定周期の安定した振動を発生させることで、時を刻むという仕組みになっています。

この水晶に大量のエネルギー（粒子）を流すことで電子や陽子が移動して、性質が変わり、壊れてしまう可能性があります。

### ・体内にペースメーカーを植込まれている人へのヒーリングについて

ヒーリングのエネルギーでペースメーカー内の電池に影響を及ぼす可能性があります。



### ・ヒーリングは基本が大事

ヒーリングに100の段階があるとしたら、50まではだれでも到達できます。しかし、50から51になるには、基本に忠実でなくては、なれません。

ヒーリングするときは、治ってほしいという欲を入れず、集中せずに意識を対象からはずして、エネルギーにゆだねます。そして、治すのはヒーラーではなく、その人自身の自然治癒力です。

## 【実践】

ヒーリングのエネルギーを使ってみましょう！

### ●直接（手で直に触れて）エネルギーを送る

#### ○直接ヒーリング

体の気になる箇所に手を軽くあてて、エネルギーにゆだねます（※）

※ヒーリングしているときは、送ることに集中しない（意識を向け過ぎない）ことが大事ですので、エネルギーにゆだね（任せ）ましょう。集中すると、自分の欲（たとえば、良くなってほしいという気持ちも「欲」です）を入れてしまい、自分のエネルギーを使ってしまうこととなります。

#### ○自己ヒーリング（自分を癒す）

肉体が疲れている時は丹田に手をあて、心（精神）が疲れている時は胸（ハートチャクラ）に手をあて、エネルギーにゆだねます。



### ●遠隔で（直接触れていない相手に）エネルギーを送る

#### ○エネルギーボールを使う

1. エネルギーを送る相手を思い浮かべます（特定します）
2. 胸の前にできたエネルギーボールを両側からゆっくりと挟むように両手でつかみます
3. 目の前に相手が立っているイメージをして、相手の胸にそのボールを入れます

#### \*タイマーセット：エネルギーボールに発動時間をセットする

エネルギーボールを送る相手の周囲に一定の時間まで待機させておく方法。たとえば、手術の時間、試験の時間、面接の時間など、決まっている時間に合わせて、エネルギーボールを送ることができます。

◇上記の2の後に、発動時間を指定します（「明日の朝7時発動」など。24時間以内のみ可能）



## ○遠隔で一定の時間、継続的にエネルギーを送る

1. エネルギーを送る相手を思い浮かべます（特定します）
2. 手のひらに指で相手の名前を書いたり、実際に名前を書いた紙や名刺をはさんだりして、両手を合わせます。
3. そのままエネルギーにゆだねます（目安は15分ぐらい。もういいかな？と飽きたらやめて大丈夫です）



## \*エリアへエネルギーを送る

送るエリア（実際に自分が行ったことのある場所）を特定し、エネルギーボールを送ります。たとえば、前日にオフィスの机や椅子などにエネルギーボールを送ることで翌日快適に過ごせたり、自分が嫌だと感じる場所に行かなくてはいけない時あらかじめエネルギーボールを送っておくと「嫌な感じ」が緩和されたりします。

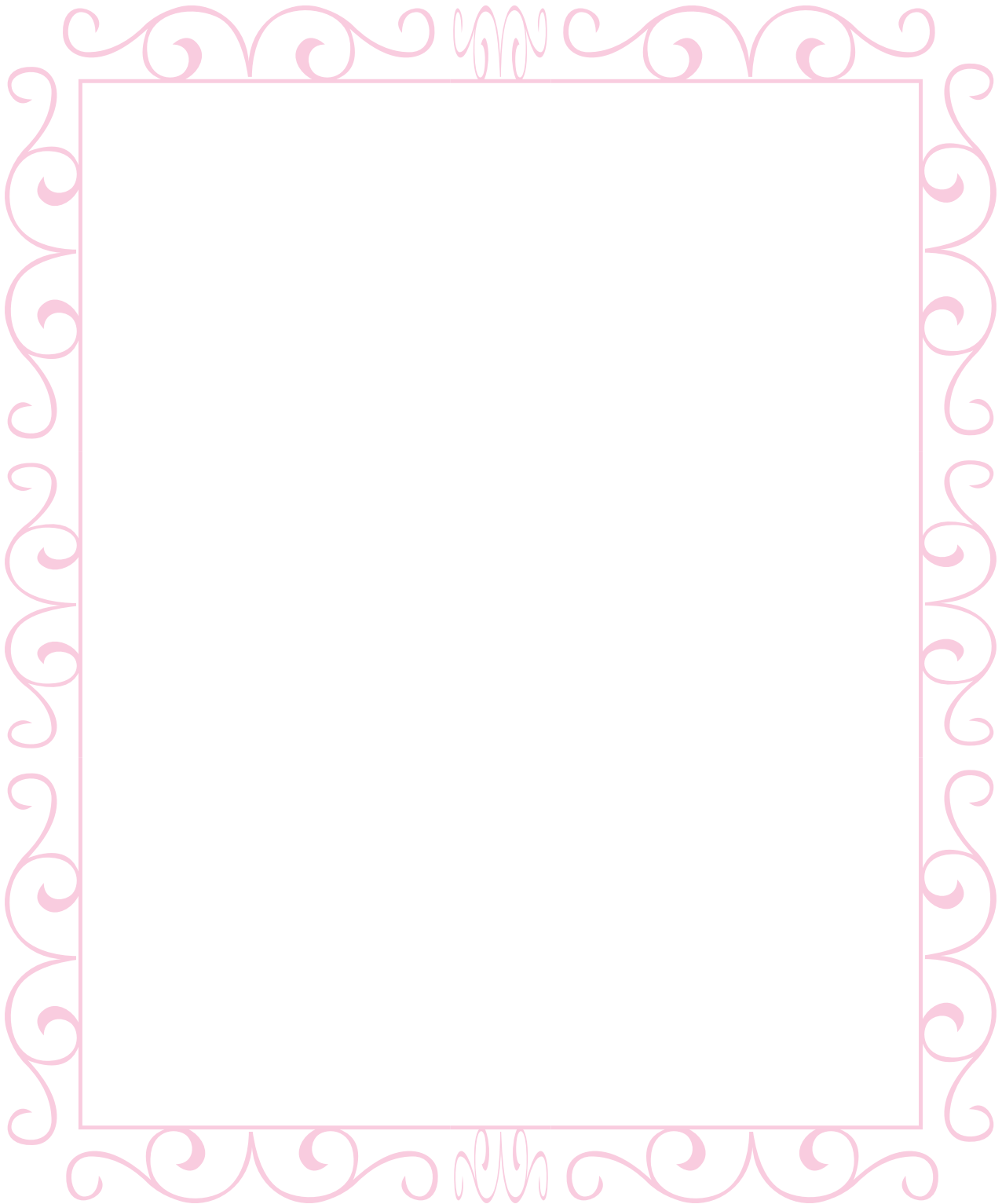


## ◎注意！

- ・実際に会った人あるいは電話などで会話している最中の人以外には、エネルギーを送ることはできません。たとえば、テレビで見た芸能人などには実際に会っていないので、顔を知っていても特定はできません。相手の波動（※）に触れていないからです。  
※波動については初級編 4P 参照。

- ・タイマーがセットできるのは、エネルギーボールだけです。

# Memo



※視えない世界の説明について、表現は霊能者によって異なる可能性があります。

【編集】天女ヒーリング創始者・園田ゆき

【監修】S 爺（霊能者）

© 園田ゆき 2017 All rights reserved